

植物を愛しているから、突き詰め続けた

『牧野富太郎 なぜ花は匂うか』

牧野 富太郎 著
出版社：平凡社
ISBN：978-4-582-53155-8



科学者・作家の両面をもつ人物の随筆作品を集めたシリーズ「STANDARD BOOKS」のなかの1冊です。科学者の書いた文章は、科学と文学、芸術といった分野を横断する感性に溢れています。「なぜだろう」「これはなんだろう」という好奇心をもって身の周りを貪欲に観察し、謎を追っていく科学者の生き様は、純粋な生きる喜び、少年少女の頃のときめきのようなものを思い起こさせてくれます。ドラマで彼の半生の物語に触れた方もいらっしゃるかもしれませんが、その人の文章を読むことで、また違った面を発見できるのではないのでしょうか。

・中央図書館に蔵書があります

「身近な生きものの不思議」

『英国王立園芸協会とたのしむ植物のふしぎ』 ガイ・バーター・著
北綾子・訳

出版社：河出書房新社 ISBN：978-4-309-25371-8
世界指折りのイギリス人庭師が130の問いと答えを通して植物の姿をわかりやすく教えてください。

『植物知識』 牧野 富太郎・著
出版社：講談社(講談社学術文庫・刊) ISBN：978-4-06-158529-4
まずはここから。身近な花と果実23種類について。

『おどろきダンゴムシ図鑑』
奥山 風太郎・著 出版社：幻冬舎 ISBN：978-4-344-03624-6
小さなダンゴムシの不思議な生態を解明！

『たんぽぽの秘密』 森乃 おと・著
ささき みえこ・イラスト
出版社：雷鳥社 ISBN：978-4-8441-3685-9

植物の知識だけでなく、文学作品や調理方法まで。さいころの表紙も鮮烈です。

『ノミ大全』 フレندان・ルヘイン・著
中川 宏・訳
出版社：博品社 ISBN：978-4-938706-06-7

ノミのために困難な目にあう人々の苦悩と苦悶、なのにおもしろい。

『かんたん識別！身近なチョウ』 森地 重博、
清水 聡司、奥山 清市・著
出版社：文一総合出版 ISBN：978-4-8299-7240-3

これからチョウチョの季節なのでオススメです。フルカラーでわかりやすいです。

テーマに沿った本を
図書館に
蔵書があるものから
選んでみました。
図書館を
是非ご利用ください



OKEGAWA hon プラス+とは

OKEGAWA hon プラス+ イベントスペースでは、OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）が主催して博物館、大学、出版社等と連携し、桶川の市民サービス向上のため、子ども向けから大人向けまで幅広い世代を対象とした学びのサポートをしています。

OKEGAWA hon プラス+でのイベントの予定についてはこちらをご覧ください



おけがわマイン 3F
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2
OKEGAWA hon プラス+
☎ 048-786-6353 桶川市立中央図書館
発行者：OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）
「202404」



OKEGAWA hon プラス+ 通信

No. 26
不定期発行



テーマは「身近な生きものの不思議」本特集

オケガワホンプラス
今回は「OKEGAWA hon プラス+ スタッフがおすすめする本」です。身近なところを見渡すだけでも、この世界には自分の知らない、たくさんの不思議が溢れていることに気が付くでしょう。今回はそんな「不思議」を、たくさんの新しい命が生まれる春という季節にちなんで「生きもの」というテーマに絞り、生きもの不思議そのものや、その問いに向き合いひたむきに探究することに関する本などを紹介します。皆さんの周りの身近な生きものに対する新しい視点を加えるきっかけとなったり、あれこれ考えるための道標となったりする1冊が見つければ嬉しいです。



植物は工夫している

『身近な植物の賢い生きかた』

稲垣 栄洋・著 出版社：筑摩書房（ちくま文庫・刊）
ISBN：978-4-480-43878-2

身近な植物の賢い生きかた



私たちの生活のかたわらで、ひっそりとたたずんでいる植物たち。花を咲かせ、私たちの胸をときめかせてくれたり、その緑で目をなぐさめてくれたり、また時には黙ってグチを聞いてくれる話し相手となってくれたり。

そんな植物たちも、実は日々生きるための戦いや、工夫をしているのです。

黄色い花はなぜ群生しているのか、花びらの数に隠された不思議な共通点、海外の植物学者が来日した時に興奮して記念写真を撮った私たちの身近なある樹木……。たくさんの

エピソードが、植物たちの素顔を教えてくれます。著者が、文章の中で、私たち人間の生活と重ね合わせて表現しているのもクスッと笑わせてくれます。



生物とはなにかという問い

『生物と無生物のあいだ』

福岡 伸一・著
 出版社：講談社(講談社現代新書・刊)
 ISBN：978-4-06-149891-4

生物と無生物のあいだ
 福岡伸一

読み始めたら止まらない
 極上の科学ミステリー
 生命とは何か?

福岡伸一さんほど生物のことを熟知し、
 文章がうまい人は希有である。サイエンスと詩的な
 感性の幸福な結びつきが、生命の奇跡を照らし出す。
 茂木健一郎氏
 超微細な次元における生命のふるまいは、
 恐ろしいほどに、美しいほどに私たちの日々の
 ふるまいに似ている。
 内田 樹氏

著者はプロローグにて、「生物を無生物から区別するものはなにかという問いは、すなわち生命とは何かという(根源的な)問いへの接近である」と書いています。

この数年間、私たちの身の回りには「ウイルス」の話題がつきまといました。増殖し変異していくウイルスは、生物であるといえるのでしょうか。分子生物学の専門領域の知見から、理系分野に明るくない読者に対して、その問いへの考察が艶やかな文章で綴られます。

専門的な内容の本章が続いたあと、生き物が大好きだった著者の少年時代の頃の苦い思い出についての語りを用意されており、その珠玉のエピローグは悲しく美しく、最高の読書体験を味わうことができます。

・坂田図書館、川田谷図書館に蔵書があります

植物だって考えているかも

『プランタ・サピエンス 知的生命体としての植物』

パコ・カルボ、ナタリー・ローレンス・著 山田 美明・訳
 出版社：KADOKAWA
 ISBN：978-4-04-113465-8



私たちの身近にある植物。頭も目も口もないし、静かに動かない。私たち動物の活動的な生活の中では、まるで舞台背景のような存在です。

いや、いやいやいやいやっ！植物だって、考えているんだ、判断しているんだ、複雑な情報を処理しているんだ、コミュニケーションをとっているんだ、というのが著者の主張です。

様々な事例がこの本で紹介されていますが、自分の部屋にある植木を見る目が、それどころか世界観が変わってしまうこと、請け合いです。

そういえば、話しかけるときれいな花を咲かせる、という話もありましたっけ。



夫婦で子育てをする虫なんてまだ報告されていない！

『ゴキブリ・マイウェイ この生物に秘められし謎を追う』

大崎 遥花・著
 出版社：山と溪谷社
 ISBN：978-4-635-06315-9



う×へい・
 じんりゃん

大崎 遥花

この生物に
 秘められし謎を追う

道と研究の相棒G

ぎょっとするようなタイトルの本かもしれませんが、著者の研究する虫は実は、身近にいるものとは少し違う種のもので。(「身近な」とした特集なのにすみません。)

恐竜の時代よりも古くから生き延びているこの「ゴキブリ目」、そのなかのある種には、未だ明かされていない、虫のなかでは異例の不思議な行動をとっているところが研究者界隈では目撃されているそうです。それを正しく観測して良い考察ができれば、これまでの研究の大河の流れを変える、まさに歴史的な論文発表ができるかもしれません。研究者として険しい道突き進む著者の様子は、なんだかとても

「楽しそうな感じ」で、一緒になって探究のワクワク感を味わうことができます。

この本では、緻密で美しく愛に溢れた、著者書き下ろしイラストも必見です。



これって・・・もしかしてかわいい・・・

『癒しの虫たち』

川邊 透、前畑 真実・著
 出版社：repicbook
 ISBN：978-4-908154-18-8



「たまには虫たちにほっこりしてみませんか？」と表紙に書かれています。私は、本屋さんでこの本の表紙を一目見て、胸を射抜かれました。

「かわいい・・・これは本当に虫なのか、妖精じゃないか、いやぬいぐるみか・・・。」って考えてしまうほどの愛らしい虫たちの写真でいっぱいの本です。

イモムシや蛾など、普段どちらかという怖く感じるような虫たちが、クローズアップされるとこんな姿をしていたとは！自然の造形の偉大さを思い知ると共に、いつも親しみ癒されているゆるかわキャラクターたちとの共通点の多さには、どうしても不思議を感じます。小さくて見えないからデザインの参考にしているはずがないのに、なぜ似てくるんだろう。

